

愛知工業大学同窓会

支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける

※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

申込先

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
愛知工業大学同窓会事務局 TEL.0565-43-1032 (FAX共通)
mizuwaka@aitech.ac.jp

同窓会へのご連絡のお願い

住所変更等は大学HPでも受け付けております。
お住まい、勤務先などに変更のあった方はぜひご連絡ください。
登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内の発送のみに使わせていただきます。
本人の承諾なく第三者に開示することはありません。

<http://www.ait.ac.jp/>

ホームページにアクセスしてください。本学の情報をたくさん盛り込んでおります。

愛知工業大学 同窓会機関誌 **みずわか**

発行日—— 2007年12月

編集—— vol.40 瑞若編集委員会

岩月栄治(チーフ)、内田敬久、馬詰恵伍、大元 司、後藤時政、高田奈美、
立枕孝之、西 裕之、坂野慎介、前田 賢、水野勝教、山田千代美

発行責任者—— 建部 謙治

発行—— 愛知工業大学同窓会 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

Tel・Fax 0565-43-1032

印刷—— 株式会社 大東社 〒494-0008 一宮市東五城字備前25

Tel 0586-62-1168 Fax 0586-62-1751

制作—— アクア・ビット

1 2007-TOPICS 01 瑞若会会報誌40号特集 『みずわか』について語る!	7 エクステンションセンター ガイド	21 OBニュース がんばるOB
3 2007-TOPICS 02 大学進学を考える高校生に向けた 「高大連携」の取り組み	9 入試インフォメーション	23 OBニュース 集まるOB
5 2007-TOPICS 03 2008年春 愛工大はどう変わる? ～学科再編と新専攻開設～	10 就職インフォメーション	25 ぐるり学内散策
	11 AITオープンフォーラム	27 事務局便り
	13 クローズアップ プロフェッサー	
	15 キャンパスニュース	
	17 クラブニュース	

CONTENTS



「時計台と新しい学園本部棟」

瑞若会会報誌40号特集 『みずわか』について語る！



創刊号から数えて40号となった『みずわか』について、瑞若会役員に思い出、ご意見・感想などを伺いました。

— 創刊当初、何か思い出に残ることはありますか

野寄： 会報誌には、挨拶など必要最低限の内容は入っていたと思いますが、ほとんどは名簿代わりでしたね。今のように入力情報がうさくない時代でしたから。

小嶋： 最初の頃は、『みずわか』の制作にも関わっていました。同窓会会員は任意加入の時代だったこともあり、会員確保が大変でした。それとともに、資金面でも苦しい状況でしたね。

若山： 3代目の会長として、6年間務めました。その頃は地域や職場での分会発足に力を注いでいたので、『みずわか』にも、分会の活動報告記事が多かったですね。記事がきっかけになり、新たな分会ができたこともあります。

— 最近の『みずわか』についてどう思いますか

野寄： 内容もデザインも充実していると思います。
建部： 編集に関わっ

いた10年程前に、表紙のデザインを工夫するなどして、少しずつイメージが変わってきたと思います。さらに5、6年前から全ページカラーになって、ずいぶん印象も変わったのではないのでしょうか。

伊藤： 制作に関わっていた5、6年前頃が印象に残っています。内容的にはあまり変化していませんね。

岡田： ページが多く、文章が長いと、あまり読まないような気がしますね。内容的にも毎年、あまり変化がないのが気になります。

— 同窓会誌の役割についてはどうでしょうか

野寄： 大きな役割が2つあり、大学の状況を知らせること、同窓生同士が情報交換をする場となること。そういう意味では、情報交換するという部分が少し足りないと思います。ただ、『みずわか』は年1回の発行なので、どうしても情報のフレッシュさという点で難しい部分がありますね。一方でホームページなどと違い、手元に送られてくるので受け身で目につけることができる点がいいと思います。

建部： 同窓会の果す役割の一つは、大学を盛り上げていくことです。同窓生と大学をつなぐのが『みずわか』なので、大学の情報を発信していく上でも必要だと考えています。

岡田： 毎年、送ることに意味があり、同窓生と大学との接点だと思います。

— 今後の『みずわか』の方向性など、ご意見をお聞かせください



事務局長
建部 謙治氏 (48A)



会長
野寄 克己氏 (41K)



常任理事
岡田 宏行氏 (H6R)



事務局次長
伊藤 雅氏 (59K)

野寄： 同窓生が自分の子どもを愛工大へ行かせたいと思うような記事があるといいですね。

小嶋： いかに若い人に興味を持ってもらい、総会などにも顔を出してもらえかが課題ですね。情報伝達の手段としてホーム

ページなどの充実も必要ではないかと思えます。2年後に大学が50周年を迎えるので、記念行事などの予定を同窓会へも流して告知していく必要もあると考えています。

建部： 実際、見てくれているのか、どう思っているのかが気になりますので、今後はもっと同窓生の声を出しつつ、意見も反映していけたらいいと思います。

伊藤： 就職と入試のページを充実していく必要があるのではないのでしょうか。同窓生の中には、企業で採用に携わる人もいますので、どのようなことを学んでいるのか、どんな人材を提供できるのかを伝えることも大事です。また、同窓生から見た愛工大生はどうかという

話もあるといいですね。また、同窓生がイメージする大学と今の大学は入試のスタイル一つとっても違い、現在の大学をどう見ているかという話などを入れるとおもしろいと思います。

若山： 同じ同窓生でも年代によって受け止め方や必要な内容が違うような気がします。現役で働いている人たちは、研究分野をはじめとした最近の大学の動向を知りたいのではない

でしょうか。採用や技術協力などに役に立つこともありますから。リタイアした人たちは、現役から退いた同窓生が趣味やボランティアなどがんばっている様子などが記事になっ

ていると元気づけられるのではないかと思います。



顧問
若山 茂氏 (37E)

— 様々なご意見、ご提案をありがとうございました。皆さんはどう思われますか。ぜひ、『みずわか』へのご意見等をお寄せください。お待ちしております。(同窓会事務局あてにメールまたはFAXでお送りください)

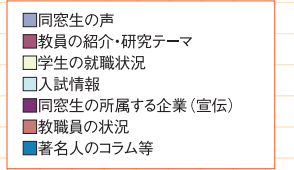
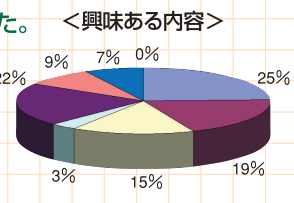
「みずわか」についてお尋ねしました！

アンケートによって、下記のような結果やご意見をいただきました。(アンケート有効回答数87人)

内容については「興味がある」「まあまあ興味がある」と回答した方が全体の約80%でした。発行形態は「印刷物のままでいい」が約60%、それに対して「インターネット」は約37%。ページ数、時期については約70%の方が「現状のままでいい」という回答でした。

その他のご意見

- ・A4サイズにしてほしい
- ・年2回発行が望ましい
- ・大学の直近の動向、学生気質の変化、学科教育指導方針の変化や背景等とともに、学校と社会(企業)との関わりについてわかりやすいメッセージを入れる
- ・各専攻の授業内容や特色のある活動状況を掲載してはどうか
- ・メールやHPもあわせて活用してはどうか



大学進学を考える高校生に向けた「高大連携」の取り組み

高校と大学が連携し、高校生の進路決定や大学進学への動機づけなどを行う「高大連携」の取り組み。最近、「高大連携」の取り組みは全国的に広がりつつあり、愛工大においても、「オープンキャンパス」「高校生対象の講義」「研究室の見学」など様々な取り組みが行われています。

情報通信工学専攻へ

名電高校から

名電高校の生徒を対象とした大学の見学会が7月12日(木)に実施されました。当日は、理工コースの生徒33名、中高一貫コースの生徒31名が、電気学科情報通信工学専攻の見学に訪れました。

専攻全体の説明が森 正和教授からあり、「何を目標して学ぶのか」「どんな科目を学ぶのか」「得られる資格は何か」「卒業後の進路について」などの話がありました。また、高校時代の準備として、学んでほしい科目の説明や、日頃から新聞を読んで考えをまとめるようにしておくなど、アドバイスがありました。

続いては、グループに分かれて、3つの実験実習室とみらい工房を見学し、装置の説明や、具体的な実験内容について説明を受けました。参加した生徒さんたちからは「部屋がきれいだった」「機械がいろいろある」といった環境への感想や「電気回路の大切さがわかった」などという具体的なコメントなどが聞かれました。



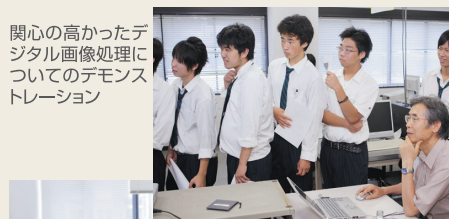
はじめて見る実験装置などに興味津々



森教授から情報通信工学専攻について説明を受ける生徒さんたち



ロボット制御などの実験装置についての説明の様子



関心の高かったデジタル画像処理についてのデモンストレーション



コンピュータの授業内容について説明を受ける生徒さんたち

経営情報科学部へ

犬山高校から

犬山高校の生徒18名が、7月27日(金)に愛工大を訪れました。高大連携の特別講義を受けるという目的で、大学や学科に関心のある生徒さんたちが希望を出して参加するもので、今年で愛工大との連携は3回目となります。

午前中は近藤高司教授から、「大学は学問を通して人間形成をするところ」「学部ではビジネスリーダーになるための基本的知識を身につける」という全体的な話がありました。続いて「コンピュータはなぜできたのか」について、ビデオを見ながら具体的な説明がされました。午後からはコンピュータ実習もあり、大学の講義を実際に体験できる有意義な1日となりました。

今後もこのような取り組みが盛んになり、高校生が大学への関心を高め、進学へのきっかけになることが期待されます。



熱心に耳を傾ける生徒さんたち



大学や講義内容等、わかりやすく説明をする近藤教授

* 犬山高校引率教諭から一言 *



大池 先生



情報担当教諭
小野塚 先生 (H17K)



情報担当教諭
和田 先生

「実際に大学を知ることは、進学を考える上での参考になりますね。家庭でも、この体験をもとに将来の進路について話をするきっかけになり、保護者からも喜ばれています。」

「今日もコンピュータの歴史をビデオで学ぶなど、わかりやすく初歩的な段階からの講義なので、生徒たちも入りやすいと思います。」

「過去にこのような講義を受けて、愛工大へ入学した生徒がいます。今日も私たちの訪問を待っていてくれました。うれしいことですね。」

2008年春 愛工大はどう 変わる? ~学科再編と新専攻開設~

「社会に役立つ人材の育成」を目指して教育をすすめてきた中で、時代や社会の流れに応え、「感動創造力をもった人材の育成」に向け、平成20年度より新たな専攻を開設します。「どう変わるのか」「新しい専攻やコースの特徴は何か」について工学部の山田和夫教授と経営情報科学部の近藤高司教授にお話を伺いました。



工学部
山田和夫 教授

文系出身者が建築を学ぶことができる

新たなコースを建築学専攻に設置

従来、理系出身者向けだった建築学専攻に、文系出身者に対応した住居デザインコースを新たに設け、従来通りの理系出身者対象の建築コースとともに2コースにしました。どちらのコースも一級建築士の資格取得を目指しています。とくに、一級建築士の全国の大学別合格者数では、平成17年度13位、平成18年度20位と上位にあり、その実績と40年の歴史の中で培われてきたノウハウや環境を生かした教育が特徴です。

建築士法の改正も視野に入れ、一級建築

士に必要な基礎科目をしっかり教育します。高校時代の学力に対応した柔軟なカリキュラムや演習を取り入れた実学教育を行い、理論と実務のバランスの取れた建築の専門家を育てます。

住居デザインコースでは、一般住宅や小規模構造物の設計や居住空間、室内環境に関する教育にウエイトを置いています。このように在学中に専門性を深めやすい環境は、工学部のコースならではのメリットと言えます。

工学部

都市環境学科

- ◆土木工学専攻
- ◆建築学専攻
- ◆建築環境学専攻

2008年春変更

*都市環境学科

- ◆土木工学専攻
- ◆建築学専攻
- ・建築コース
- ・住居デザインコース



経営情報科学部
近藤高司 教授

スポーツビジネスとマルチメディア

時代の先端ビジネスに対応した専攻

経営情報科学部では、マーケティング情報学科を経営学科に名称変更し、3専攻を設けました。また、情報科学科は新設の「メディア情報専攻」とともに、2専攻としました。

インターネットが世界中に普及し、最近ではITからICT (Information and Communication Technology) と言われる情報通信技術の時代になって来ました。もはや、コンピュータはビジネスの世界では欠かせないツールになっています。

経営学科はコンピュータを活用し、経営の効率化をはかることができるビジネスリーダーや、消費者のニーズに応じて企画・立案ができるような人材育成を目指しています。

とくに近年、広がりつつあるスポーツビジネスの世界では、スポーツをマネジメントし、プロ

デュースできる人材が求められています。新たに設けた「スポーツマネジメント専攻」では、経営学とスポーツ科学を総合的に学び、スポーツビジネスの世界で活躍できるような能力を磨くことを目的としています。

情報科学科では、従来のコンピュータシステム専攻に加え、新たに「メディア情報専攻」を設置します。コンピュータのシステムに精通した人材育成や、多彩なソフトを使いこなすデジタルコンテンツの世界で活躍できるような能力を身につけることを目指しています。デジタルコンテンツの分野では、映像やサウンド、Webデザイン、CADなど、幅広いスキルを持った人材が不足しています。ICTビジネスで活躍できる、デジタルクリエイターを育成していきます。

経営情報科学部

情報科学科

- ◆経営情報システム専攻
- ◆コンピュータシステム専攻
- マーケティング情報学科
- ◆マーケティング情報専攻

2008年春変更

*経営学科

- ◆経営情報専攻
- ◆マーケティング専攻
- ◆スポーツマネジメント専攻

*情報科学科

- ◆コンピュータシステム専攻
- ◆メディア情報専攻

同窓生、一般の方を対象に 様々な講座を開講しています!

エクステンションセンターでは、本山キャンパスの「オープンカレッジ」や、八草キャンパスの「エクステンション講座」、パルティセとで開催する講演会や講座など、一般の方が参加できる様々な講座をご用意しています。

オープンカレッジ 本山キャンパス

本山キャンパスでは、ものづくりや語学、教養の講座を開催しています。また、小学高学年向けに、ものづくりや実験を行う「少年少

女科学・ものづくり教室」も行っていきます。開講は春季と秋季の年2回です。同窓生の皆さんも、ぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先 ■ 本山キャンパス TEL.052-789-1381

オープンカレッジ講座レポート



参加者の方の作品

楽しい「木版画講座」で 和気あいあいと作品づくり

春季、秋季で開講した、大人向けのものづくり講座の一つ「木版画講座」。全8回で行われた春季講座では、題材選びからスケッチ、彫り方、刷り方、額入れの仕方まで、ていねいな指導により、すばらしい作品ができて上がりました。

「版画は工作ではなく、版による絵



彫刻刀の説明をする大澤先生



ていねいな指導が好評



真剣に取り組む参加者の方々

です。だから、オリジナリティが大切ですね」と語る大澤啓三先生。参加者の皆さんは、小学校以来、絵を描いたり、彫刻刀を持ったことがないという方がほとんど。それぞれに旅の土産で買った置き物や愛用のコーヒーミルなど、お気に入りの品をデッサンし、木版画にしました。参加者の方からは「絵を描くのに苦労しましたが、とても楽しかった」「奥が深いので、のめり込みそう」「娘や息子にプレゼントしたい」などの声が聞かれました。

講演会・講座

パルティセと



地震についての話をする正木教授

「大学コンソーシアムせと」に加盟する6大学による講演会や公開講座を名鉄・尾張瀬戸駅前のパルティセとで開催しています。

平成19年度、愛工大は正木和明教授が地震に関する講演会を行い、一柳勝宏教授と雪田和人准教授が「自然エネルギーによる電気エネルギーの安定供給」と題した講座を担当しました。



緊急地震速報などの話に聞き入る参加者の皆さん

お問い合わせ先 ■ 大学コンソーシアムせと TEL.0561-97-1177

エクステンション講座 八草キャンパス

スキルアップ、資格取得等をサポートする目的で、様々な講座を開催しています。学生はもとより、一般の方々も受講できます。

メリットや利便性にも注目!

- ◆ 専門学校に比べて受講料が安い
- ◆ 資格・検定試験の受験に際しての出願手続きをセンターが行うので手間が省ける
- ◆ ほとんどの講座はビデオで見ることができ、欠席したり、復習したいときに便利
- ◆ PCが接続できる情報コンセントのある自習スペースが用意されている

〔平成19年度講座内容〕

- **コンピュータ関連**／初級システムアドミニストレータ、基本情報技術者、マルチメディア検定(2・3級)、パソコン総合基礎、MOS試験(Word・Excel)、MCP、CGエンジニア検定(2・3級)
- **CAD関連**／3次元CAD利用技術者、CAD利用技術者(2級)、CAD利用技術者(1級/建築・機械)
- **語学関連**／TOEIC(前期)、工業英語検定(3級)
- **建築関連**／2級建築士、宅地建物取引主任者、管理業務主任者、福祉住環境コーディネーター(2・3級)、色彩能力検定(2・3級)、インテリアコーディネーター
- **機械・電気・電子関連**／電気主任技術者(第3種)、危険物取扱者(甲種・乙種4類)
- **その他**／ファイナンシャル・プランナー3級FP技能士、公務員、日商簿記(3級)

お問い合わせ先

愛工大 エクステンションセンター
TEL.0565-48-8121(代表)
[URL]
<http://www.aitech.ac.jp/e-center/>

大学の様子や入試のことがまるわかり オープンキャンパス開催！

夏と秋の2回開催されるオープンキャンパス。夏は7月28日(土)・29日(日)に開催され、2日間で1,438人の参加がありました。保護者説明会や推薦入試対策講座では、熱心に耳を傾ける親子連れや高校生の姿が印象的でした。個別相談もていねいな対応が好評で、入試のことや

大学のことなど、納得がいくまで相談ができました。また、参加者は各学科専攻ごとの工夫を凝らしたデモンストレーションに興味津々の様子でした。秋は愛工大祭開催中の10月14日(日)に実施され、438人の参加がありました。



- ① AITプラザで行われた、入試についての説明会
- ② 機械工学専攻で形状記憶材料の不思議を体験する参加者の皆さん
- ③ 個別の入試相談のコーナー
- ④ スポーツマネジメント専攻で、「DSメチカラトレーニング」を体験
- ⑤ 飛行船の説明をする知能機械工学専攻の会場
- ⑥ 専攻別のデモンストレーション

新しい入試スタイルがスタートします

多彩な入試制度がある愛工大。

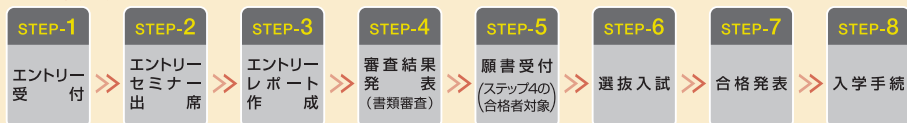
「文系入試」や「AO入試」などを活用すれば、さらに選択の幅やチャンスが広がります。

受験生に朗報！

その1 文系入試で工学部も受験できる!!

以前から一部の学部で文系出身者を受け入れてきましたが、今年から工学部都市環境学科建築学専攻に「住居デザインコース」を新設し、文系入試ができるようになりました。ほかにも経営情報科学部では、経営学科の「経営情報専攻」「マーケティング専攻」「スポーツマネジメント専攻」と、情報科学科「メディア情報専攻」で文系入試ができます。

■AO入試の流れ



その2 AO入試で適性を生かす!!

AO入試とは、アドミッション・オフィス入試の略で、大学のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)に照らし合わせて可否をきめる入試スタイルです。従来の学力試験の得点や推薦などで可否が決まるのとは異なり、志願者自らエントリーができ、提出レポートや面接、小論文など、多面的、総合的に評価するものです。

■全学的な就職支援をしています

キャリアセンター[※]では、全学的な就職指導として、段階的、継続的な就職支援を実施しております。その中で特に3年次より就職ガイダンス(講演・パネルディスカッションなど)、就職適性検査、就職模擬試験(一般常識、基礎学力など)、就職対策講座(SPI、エントリーシート、面接試験他)などを実施。また、本学園の後援組織「愛名会」の共催を得て、学内企業展および地元企業交流会を開催し、直接企業と接する機会を学生に与え、積極的な就職活動を推し進めています。

■スピーディな情報収集

本学に来ている求人企業情報をキャリアセンターのホームページ上にある、J-NET求人検索において学内および自宅から求人企業情報の検索、公務員に関することや企業説明会開催情報、各企業のホームページにアクセスすることが可能です。

[URL] <http://www.aitsyusyoku.com/>

■パソコンを利用できる就職資料室

キャリアセンターには、学生の就職活動をバックアップするために就職資料室を設置しています。資料室には、4,000社以上の企業ファイルコーナー、本学に来ている求人企業検索ができるパソコンコーナー、就職に関する相談や悩みをアドバイスする相談コーナー等を設け、就職活動にあたり必要な情報を得ることができます。

■学生の能力を活かした就職指導

本学では、キャリアセンターによる全学的指導と併せて、各専攻の就職担当教員による就職指導を行っています。専攻別のガイダンスや個人面談を通し、学生をバックアップしながら能力、適性に応じた進路を選択させるように指導しています。キャリアセンターと各専攻でサポートする就職指導体制により、就職実績は各界から高い評価を得ています。

※「就職支援センター」は平成19年4月1日より「キャリアセンター」へ名称変更しました。

■本学の年次別就職支援

年次	主な講座等	内容
一年次	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 就職に向けての学生生活(講演) ▶ 自己発見レポート実施 	まず大学というところを知ること。そして、自己分析を行いながら、有意義な学生生活の過ごし方等をアドバイス。
二年次	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自己プログレスレポート実施 ▶ インターンシップの受講 	一年間の大学生活を振り返り、次のステップへの動機を明確化し、進路目標をより具体化できるようアドバイス。
三年次	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各専攻別ガイダンス ▶ 就職適性検査 ▶ 人事担当に聞く「企業が求める人物像」 ▶ 実践模試 ▶ 業種別研究会 ▶ 学内、学外企業展 	希望した企業からいち早く内定を勝ち取るため、様々な検査・ガイダンス・講座・企業展を実施。また、Uターン支援も行っている。
四年次	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 積極的な就職活動 	希望企業からいち早く内定確保

AIT OPEN FORUM
第63回

2007年8月25日(土)
岐阜グランドホテル

「地震が来ます。地震が来ます。9,8…1秒」
～緊急時地震速報が導入されました～

講師：正木 和明 教授
都市環境学科 建築環境学専攻

「緊急地震速報は地震予知ではありません。地震が発生してから大きな揺れがやって来るほんの数秒～数10秒前に、地震発生を知らせる速報システムで、地震が来る前に退避行動を取ることができる先端技術です。いよいよ10月1日から速報の配信が始まります。テレビ(NHKのみ)を見ていると突然「地震が発生しました」という画面。あと10秒。何ができる

でしょうか?」とのテーマの講話。本学は既にこのシステムを大学としては唯一導入しており、昨年実施の本学における避難訓練の様子や同速報のシステムの紹介もあり、受講者は熱心に聞き入っていました。



AIT OPEN FORUM
第64回

2007年9月15日(土)
京都タワーホテル

「インターネットの誕生と、その動向」
～世界を見渡す3DソフトウェアGoogle Earthの実演～

講師：近藤 高司 教授
情報科学科 経営情報システム専攻

「ポールバランが考案した分散型通信システムは、インターネット技術の原点であり、当初、米国防総省による次世代の軍用通信システムであった。その後、多くの研究者による技術開発により、より便利で、高速、高信頼性で、経済的な通信手段となる。コンピュータやデジタルデバイスの急速な進化と、TCP/IP(通信方法)確立によりe-mail、www(World Wide Web)など利便性が向上。1990年代に入り、商用化して民間ビジネスに開放され、情報スーパーハイウェイ構想(USA)、e-Japanとなり、通信の社会基盤となった。ネットショッピング、情報検索、

メールなど市民生活に不可欠な道具であり、その未来は無限で、デジタル通信の波、ハイビジョン革命は我々の生活にもっと大きな変革をもたらすであろう。我々は、インターネットを賢く利用するとともにサーバー攻撃やコンピュータウイルスの脅威に対抗しつつサーバースペース時代を生き抜くことになる」と、明快な解説がなされました。同時に世界を見渡す3DソフトウェアGoogle Earthの実演と紹介も行われました。



AIT OPEN FORUM
第65回

2007年9月22日(土)
四日市都ホテル

ひとにやさしい住まい・まち ～子どもと環境～

講師：建部 謙治 教授 都市環境学科 建築環境学専攻

「社会が大きく変わろうとしている現代において、私たちはどうすれば豊かに快適に暮らせるのでしょうか。子どもを取り巻く生活環境も例外ではありません。将来の日本を担う子どもがどうあってほしいのか、どう育てていけばいいのか、私たち一人ひとりが真剣に考える時期に来ています。今、行政でも子どもの視点でのまちづくりに関心を持っています。子どもの

頃を思い出しながら、子どもを取り巻く環境について、遊び、生活、安全の切り口から考えてみたいと思います」との提言に基づき、環境から受ける影響の強さ、住まいでケガをし易いのは誰か、これからのまちづくり(快適さ、美しいこと、まとまり・文化性)などについて、解説がなされました。



AIT OPEN FORUM
第66回

2007年10月6日(土)
金沢都ホテル

「世界遺産にみる仏教建築の源流を訪ねて」

講師：杉野 丞 教授 都市環境学科 建築学専攻

「仏教文化は6世紀中ごろ中国より日本に伝えられました。中でも、寺院建築は南都を中心に国家の保護により数多く建立され、そうした寺院建築の源流を訪ねた人物がおりました。建築史家伊東忠太は明治35年に中国大陸へわたり、シルクロードに残された多くの仏教遺

跡の踏査をしました。それは世界遺産への旅でもあり、その足跡を訪ねてみます。1)玄奘三蔵の旅 2)敦煌の発見 3)大谷光瑞の旅 4)伊東忠太の旅をテーマに、大変興味深い講話がなされました。



AIT OPEN FORUM
第67回

2007年10月20日(土)
浜松名鉄ホテル

眼力(メチカラ)と日常生活

講師：石垣 尚男 教授
マーケティング情報学科 マーケティング情報専攻

「今年、任天堂(本社・京都市)から私の監修による【見る力を実践で鍛えるDS眼力トレーニング】が発売されました。大変な人気となり、発売当初は品切れが続きました。おかげさまで多くの人に楽しんでもらっています。東北大学・川島教授の【脳トレ】以来、トレーニングブームに火がつき、多くのトレーニングソフトが出ています。これらのトレーニングブームは、人

の持つ様々な能力へ気づきを与えるとともに、自分の能力の再発見や、さらにそれらを鍛えることでより良い生活につなげるというプラスの影響をもたらしています」との提言から、1)視力 2)眼力(メチカラ) 3)眼力(ガンリキ)・目利きをテーマとして詳細な解説がなされました。



愛知工業大学瑞若会(同窓会)
静岡支部総会
2007年10月20日(土)
浜松名鉄ホテル



静岡支部役員、会員13人と大学同窓会本部から野寄会長はじめ4人の役員が出席して、第7回静岡支部総会が開催されました。議事に先立ち、後藤泰之学長から、大学の現状報告等

を含めた挨拶があり、引き続き、総会次第に沿って議案が提議され、審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。役員についても選出され、現役員により引き続き静岡支部の運営がなされることになりました。また、研究課題として静岡大学教授・以西雅章氏(47R)による近況報告がなされました。

AIT OPEN FORUM
第68回

2007年10月27日(土)
岡山ロイヤルホテル

司馬遼太郎と時代をゆく

講師：森 豪 教授 基礎教育センター 総合教育教室

「司馬遼太郎が「たたえる」こと」と題して、次のような題材について紹介があり、大変興味かわく解説に参加者は聞き入っていました。
・司馬遼太郎と時代をゆく(2005年:万博・生き物との地球的繋がり、2006年:技術者倫理、企業者倫理など、倫理が問われた時代、階層

社会倫理の危機)
・司馬遼太郎の職人愛
・司馬遼太郎の現実感覚
・「燃えよ剣」の土方歳三の美意識
・美しい国など



大学院の活性化に向けて、舵取りをする

副学長 大学院工学研究科長
電気学科電気工学専攻

小嶋 憲三 教授 (40E)



▶ 大学院進学率を増やしたい

副学長として大学の運営に携わり、現在の教育や研究の方向性、問題点などをチェックしたり、将来計画策定の会議に出席するなど、多忙な日々を送る小嶋教授。大学院工学研究科長も兼任し、文部科学省の支援する大学院活性化プロジェクトの一貫で「大学院教育プログラム」も立ち上げたところ。「現在、本学の大学から大学院へ進学するのは、約6,000人中200人程度です。大学院への進学率を倍に増やしたいと思っており、そのために様々な案を考えています」。

▶ プロジェクトを推進する具体策

その一つが研究を通じた国際的な交流の強化。院生を中心に学术交流協定を結んでいる海外の大学（中国、韓国、タイ、アメリカ、フランス）へ学生を派遣し、同時に海外からの受け入れをす



対外的な仕事も多い小嶋教授、「からくり展」のオープニングに出席

るというものです。「こちらから院生を送る場合は、語学力も欠かせない条件になりますから、大学院で英会話コースを作る必要があります。また、経済的支援策も検討しており、例えば、大学院の授業料を減額するなど、学生の負担を減らすようにしたいと思っています」。こうしたプロジェクトを推進しながら、文部科学省からの支援を得られるように方向付けを行うのも大事な役割とか。

▶ 大学のために卒業生として尽力する

小嶋教授はこの10年余り、学生部長、入試部長、工学部長と、学生と関わりの深い仕事をしてきました。「受験生から大学院生までの動向をつかんできたことが、今の仕事にも役立っています」。いかに魅力ある大学にし、それをアピールしていくかに尽力する小嶋教授。「高度な研究、産学連携、就職などを視野に入れながら、大学院を改革していく必要があると考えています。大学院の活性化のためには、今後は社会人や留学生を積極的に受け入れていくことも一つの方法です」。

大学の運営に力を注いでいるため、ご自身の専門分野である「有機太陽電池に関する研究」や「有機ELディスプレイに関する研究」などには、なかなか時間をさけない状態だとか。今の様々な仕事について、小嶋教授は「大学を良くしていくことは、卒業生としての恩返しと思っていますから」と語ります。

メジカラ

眼力を普及させ、快適な日常生活に貢献する

マーケティング情報学科
マーケティング情報専攻

石垣 尚男 教授



メジカラ

▶ 眼力トレーニングを家庭で気軽にしてほしい

「スポーツビジョン」、「動体視力」などを専門に研究する石垣教授。スポーツ選手を対象に様々な測定機器やパソコンソフトなどの開発をすすめてきた中で、今回は一般の人を対象にした、「ニンテンドーDS眼力（メジカラ）トレーニング」が石垣教授監修のもとに今年の5月に発売されました。これは、ゲーム感覚で、いつでも、どこでも、誰でもがトレーニングできるという画期的なものです。

「最初に開発していた測定装置は、大がかりでコストもかかり、普及するものではなかったですね。次にパソコンでのトレーニングを考え、ソフトを作りました。ある程度は広まったのですが、パソコンが必要という弱点があり、さらに普及させるにはゲーム機がいいと思っていました。そこへちょうど、製品化の話があって実現したのです」。



石垣教授監修の「ニンテンドーDS眼力（メジカラ）トレーニング」

▶ 日常生活で無意識で使っている眼力

動体視力、瞬間視、眼球運動、周辺視野、眼と手の協応動作の5つの測定や能力を鍛えることができる「ニンテンドーDS眼力（メジカラ）トレーニング」。日常の生活で、眼力は意識してないものの、使っているとか。「例えば、私たちは本などを読むときに、文字をある程度のかたまりで認識します。一つのかたまりが大きければ、早くスムーズに読めるわけですね。これには、主に瞬間視と眼球運動が関わっています」。こうした能力は20歳ごろがピークで、加齢とともに衰えると言います。まず、自分の能力を知り、長所をのばし、トレーニングによって衰えるスピードをゆるやかにすることが、快適な生活にもつながると、石垣教授は考えています。

▶ 「見る能力」とスポーツ能力の関係

石垣教授は、スポーツ中に選手がどこを見ているかという「注視点の研究」もしています。走ったり、打ったりという能力は出力系と言われるもので、常に比較ができるもの。ところが、選手がどこを見て、どのように判断したかは入力系と呼ばれる脳の中での処理なので、通常、本人も他の人からもわからない。「現在では人によって違いがあることが証明され、見る能力を鍛えることでプレーが向上し、結果にもつながるといことが認知されつつあります。これを子どもたちのトレーニングにも応用できたらと考えています」。

夏休みの人気講座 「まるごと体験ワールド」

小中高生の皆さんに理科の楽しさを体験してもらう実習と実験主体の「まるごと体験ワールド」が8月4日(土)・5日(日)に行われました。今年は全部で12テーマ。それぞれに趣向を凝らした楽しい内容が揃いました。



皆で力を合わせて、ドームづくりに挑戦

「建築デザイナーにチャレンジ！」

はじめに世界の特徴のある建物をスライドで見たり、体を使って強度の実験をしたあとで、早速ドームづくりを開始しました。プラスチック段ボールを切って作った三角形のパーツからなるドーム。子どもたちはカッター片手に、パーツ作りに取り組みました。パーツを順番に貼り合わせていくとだんだんと形になっていきます。半円形のドームができたときは、大きな拍手と歓声に包まれました。



①体を使って、建物の強度の仕組みを体験 ②ドームについて説明をする中井講師 ③大学生の助けを借りながらパーツ作りをする参加者 ④パーツを貼り合わせながら組み立てます ⑤やった!完成したドームと参加者 ⑥ドームの中に入って遊ぶ子どもたち

他にも楽しいテーマがいっぱい！

地震の科学を探検しよう●小さな飛行機雲を作ってみよう●目で見る暗号●新理論でレンズの実験をしてみよう●よく飛ぶ竹とんぼを作ろう●川の生き物の観察会●ロボットカーをつくらう●温度計、風向計を作って夏を測ってみよう●パソコン分解

2007年「AITサイエンス大賞」発表！

高校生を対象に、理科や科学のクラブにおける課題研究などの成果を発表する場を設け、優秀な作品を表彰する「AITサイエンス大賞」。

6回目の今年は、平成19年11月17日(土)に「自然科学部門」と「ものづくり部門」の2つに分かれ、日頃の成果を競いました。限られた時間でわかりやすく説明することが求められるステージ発表と審査員の先生方からの様々な質問に答えて説明するパネル展示発表が行われ、各部門の優秀賞が決定しました。



研究成果の発表

- 自然科学部門■
岐阜農林高校
多治見北高校
菊里高校
- ものづくり部門■
佐織工業高校
春日井工業高校
愛工大名電高校

作るのは簡単!飛ばすのが難しい!

「ふわっ、もうっ風に浮く紙ヒコーキをつくろう！」

発泡スチロールを薄く切った特殊な紙(浮羽ペーパー)を型紙通りに切って作る紙ヒコーキ。型紙見本は、クリオネや白鳥、アニメキャラクターなど20種類以上あり、型紙通りに切った紙ヒコーキに、おまりの役目をするシールを貼ったら完成です。早速、試験飛行にチャレンジしていましたが、まっすぐ飛ばすのはなかなか難しいようです。お父さん、お母さんたちも子どもたちと一緒に童心にかえて楽しい時間を過ごしました。

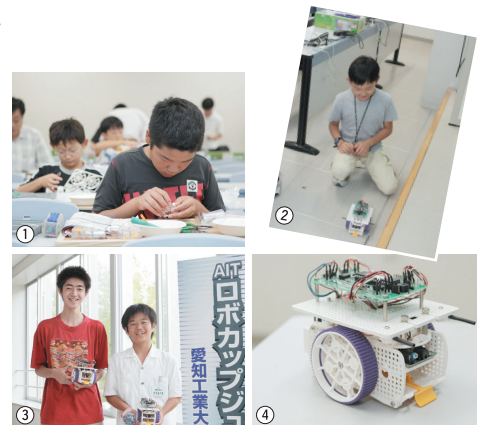


①一柳教授の説明を受けて、製作開始 ②楽しみながらも慎重に取り組み参加者 ③遠くまで飛ばすと思わず歓声があがる試験飛行 ④様々な形をした紙ヒコーキ

複雑な配線もこなして、大人顔負け

「サッカーロボット大会への挑戦！」

毎年、愛工大で開かれている「ロボカップジュニア」への挑戦を目指して、自律型サッカーロボットを組み立てる講座。チャレンジ精神旺盛な参加者の皆さんは、説明やアドバイスを受けながら真剣な表情で組み立て。配線に苦労しながらも、予定より早く次々に完成しました。早速、試験走行のためのプログラムを入れて、実際に動かして、不具合をチェック。ロボカップが楽しみです。



①真剣に組み立てをする参加者 ②完成後の試験走行も問題なくクリア ③ロボカップ出場歴もあり、今回はスタッフとして協力していた稲森君(高校2年生)と平井君(中学3年生) ④完成した自律型サッカーロボット

第47回 愛工大祭開催!(10/12-14)

今年のテーマは「愛工一揆」。「皆で団結して一つのことをなし遂げよう」を合い言葉に準備をしてきました。13日の狂夜祭ではインディーズバンドの無料ライブなどが行われ、14日には全米でも人気の「PUFFY」の公演もあり、盛り上がりは最高!もちろん、恒例の「工科展」やクラブなどによる模擬店もあり、学生だけでなく家族連れの方々が楽しむ姿も多く見られました。



人々が行き交うセントラル広場

秋晴れの中、始まった大学祭

様々な催しが行われたセントラルステージ

ボート部

部員数:5名
主将:土山 尚人



土山主将

栄光に向かって突き進む!

愛工大ボート部は少ない部員ではありますが、毎日のトレーニングに励んでいます。陸上トレーニングの他、練習の大半をボートで行い実践のフィジカルやスキルを磨いています。その結果、今年行われた中部地区学生大会で優勝することができました。これを弾みに全日本大学選手権で最高の結果が出せるように頑張っています。

また、全員一丸となってボート部を活性化させていきたいという思いも強く持っています。そのために良い練習ができる環境作りなど、一層の努力を積み重ねていきますので、どうぞ応援よろしくお祈りします。



優勝の喜びと次のステップへの抱負を語る



地道にトレーニングに励む部員たち

洋弓部

部員:30名
主将:安田 光貴



安田主将



優勝に向けて一致団結する部員

優勝旗奪還の的を目指して弓を射る!

愛工大洋弓部では、中・高時代からの経験者と初心者があります。そのため、部員全員で協力し、個々のレベルアップを目指して週3回の練習と自主練習に取り組んでいます。さらに実力向上をはかるため、夏には環境を変え長野県白馬村の射場にて合宿を行っています。

最近では2005年度東海学生アーチェリーリーグ戦一部リーグ、2006年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦(2006年度より大会名変更)で優勝しました。しかし、今年度は負けてしまい、追われる立場から追う立場になってしまいましたが、優勝旗奪還を目標に日々練習に励みたいと思います。

ギターの素晴らしさを奏でたい!

ギター部のほとんどは初心者ですが、日々練習の中では、お互いに補いながら合奏を中心に活動しています。また、全員が上手になりたいという意思を持っているので個人練習をしても上達は早いです。

昨年は東海ギター連盟主催の定期演奏会に初めて出場しました。そこで他大学の演奏に魅了され、大きな課題を見つけることができました。

今年は「愛工大ギター部が魅了する方だ!」と全員が意気込んでいます。新入部員も多く加入して、迫力のある演奏ができると楽しみにしています。ぜひ、聴きにきてください。



上田部長



より高度な演奏をを目指して決意を新たにする部員



演奏会の様子

大会での好成績に期待!

我らフィッシング部は、釣り好きな人の集まりです。様々な場所へ釣りに行き、魚と戯れて「釣り」と「自然」を楽しんでいます。時々、釣りの大会へ出場し、自分の腕を披露したりもします。先輩・後輩の壁があまりなく、主に木曜日にミーティングを行い、土曜日・日曜日に釣りへ出かけます。フィッシング以外でも学祭で模擬店を出店するなど幅広く活動しています。

ここ数年、あまり大会に出ることはありませんでしたが、今年は積極的に参加していきたいと思っています。伝統あるこの部を大切に、これからも頑張っていきたいと思っています。



高橋主将



和気あいあいとした雰囲気部の部員たち

フィッシング部

部員:15名
主将:高橋 尚吾

自動車部

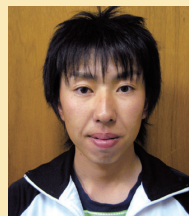
部員数:18名
主将:尾和 洋孝

モータースポーツを楽しみつつ、 良い成績を残す!



軽自動車耐久レースに出場したメンバー

自動車部は学園バス車庫の半分を使用して活動しています。競技車両は3台所有しており、ボディやエンジンなどを競技に合わせてセッティングしています。競技にはエコランやE3燃料(バイオエタノールを3%混入したガソリン)を使用したものもあり、京都議定書が採択されて以来、エコを考えることが多々あります。



尾和主将

ここ数年の競技成績は、2007年の全日本ダートトライアルで斉藤裕晃君(土木工学専攻4年生)が5位、エコランでは2005年部門優勝、2006年総合3位と、全国的にも愛工大自動車部の名前を広めることができました。全日本フィギュア、軽自動車6時間耐久レース(関東支部主催)などにも出場しています。今後も全日本学生自動車連盟副会長(中部支部長)の後藤泰之学長先生、顧問の岩月栄治先生のもとでモータースポーツを楽しみたいと思っています。



2007年の第2回全日本学生対抗チーム・マイナス6%エコドライブコンテスト(鈴鹿サーキット国際レーシングコース)

来年の軽自動車6時間耐久レースはOBチームも参加を予定しています。OB・OGの皆様で学生時代に戻ってハンドルを握ってみたい方は、顧問の岩月先生(iwatsuki@aitech.ac.jp)までご連絡ください。

ホットニュース

世界の舞台やプロでの活躍が期待される 野球部の長谷部康平投手!

北京オリンピックアジア予選野球の最終候補34人に、アマチュアで唯一選出された長谷部投手(マーケティング情報学科4年生)。北京オリンピック大会では、優勝メンバーの1人としてストッパーの役目を果たし、勝利に貢献しました。来年からはプロ野球での活躍が楽しみな選手です。



記者会見で喜びを語る長谷部投手

「第31回鳥人間コンテスト選手権大会」に 愛工大「人力飛行機同好会」が初参加!



第31回鳥人間コンテスト選手権大会での「AIT-001号」の飛行の様子

鳥人間コンテストに初チャレンジ

自作人力飛行機による飛行距離や飛行時間を競う鳥人間コンテストは、人力で空を飛ぶという夢とロマンにあふれた大会です。今年は7月29日(日)に滋賀県彦根市琵琶湖東岸の松原水泳場において開催されました。3つの部門で競う大会の「人力プロペラ機ディスタンス部門」に、愛工大の人力飛行機「AIT-001号」が初飛行。厳しい書類審査にも合格し、2005年に同好会が発足して3年目に夢が叶いました。

大会当日、多くの観衆が見守る中、飛び立った「AIT-001号」。結果は残念ながら、発進して数秒後に、横風を受けてCFRP製胴体が破損し、飛行距離53メートルと当初の目標には届きませんでした。酒井春雄教授(機械学科)によれば「琵琶湖の気象条件が想定したより厳しかった結果ですね」。



組み立てた自作人力飛行機の前で

人力飛行機にかける熱い思い

人力飛行機同好会のメンバーは総勢48名。「設計や製作も学生たち自身でやっていますが、飛ばすためにも大勢の力が必要で、チームワークなくしては実現できないプロジェクトです。もちろん人が乗る以上、飛行の安全が最優先課題です」と顧問の酒井教授。

大会に出場した飛行機「AIT-001号」は、翼幅28メートル、重量35キログラム。カーボン複合材やバルサ、発泡材を主体に作られています。部品の加工や一部加工のための機械も手作りとのこと、メンバーの結束は欠かせません。



①



②



③



④



⑤



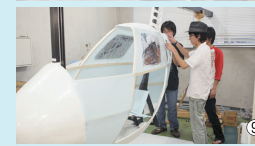
⑥



⑦



⑧



⑨

①人力飛行機の難しさなどについて語る酒井教授 ②同好会発足時からのメンバー榊原さん ③皆で協力するのが楽しいと言う若山さん ④難しいけどおもしろいと話す小澤さん ⑤ものづくりが好きな川上さん ⑥パイロットとしての抱負を語る大谷さん ⑦⑧⑨コンテストに向けて最後の仕上げをするメンバー

設計を担当したリーダーの大学院工学研究科1年生の榊原さんは「極限まで軽量化し、強度も必要なので苦労しました」。製作を担当した機械学科4年生の若山さんや小澤さんは、主翼の角度をそろえるのが難しいと言います。「難しいけど、設計図通りにできたときはうれしい」と電気学科2年生の川上さん。自転車のように足でこいでプロペラをまわすため、パイロットには相当の脚力が要求されます。高校時代、自転車部で鍛えたというマーケティング情報学科3年生の大谷さんは「今回は5m/s前後の風がありましたが、横風の影響を考えて操縦するのが大変です」。

今年の結果を分析して、メンバーはこれからも夢に向かって挑戦を続けるそうです。

何をどれだけ学ぶかも必要だが どう学ぶか、対処するかで人生は変わる

Wataru Sugiura

最先端のコンピュータ知識にふれた 学生時代

経営工学科4期生の杉浦さんは、卒業と同時に同じ学部先輩や同級生たちと起業し、コンピュータ分野の先駆けとして活躍してきました。

学生時代は今のようコンピュータが普及していない頃。2、3年のゼミで情報理論としてのコンピュータの基礎を徹底的に教えてもらったことが、今につながったそうです。興味のある分野だったこともあり、自主的に勉強。「卒業論文は、ほとんど指導を受けずに、同じゼミの仲間たちと協力しながら書き上げました。数値制御工作機械の最適生産効率などについて研究をするために、企業へ出かけて現場の状況調査や分析などもしましたが、すべて自分たちでやりましたよ」。この頃から、主体的に物事に取り組む姿勢が伺えます。



株式会社シンプル
代表取締役
杉浦 亘 氏(44K)

例のない中で様々な業種のシステム作りを手がけてきました。同時に営業も積極的にこなし、飛び込みで提案営業をしながら、仕事を受注。5年が過ぎた頃には、単身で知り合いもいない大阪へ。「一から営業して受注し、営業所が40人弱の規模になるまでにしました」。大阪が一段落すると、次はアメリカへ飛びます。全く機能していなかったロスの事務所を、3カ月で安定した収益の出るよう改善。再び、留守中に業績の悪化した営業所を立て直すために大阪へ戻り、見事に再生させます。その後、この会社を後にし、自分の会社を作って独立。愛工大の非常勤講師を務めるなど、多忙な日々を送ってきました。

自分をきちんと 見つめることが大切

経験から、まずは自分を見つめるのが大切と言います。自分は何が好きなのか、興味を持てるものは何か、人に言われて行動するタイプか自分から動くタイプか、やりがいを感じるのはどんなときか…。「私は学生時代にホテルでアルバイトをしたときに、人に喜んでもらうことで充実感を味わいました。だから、今の仕事を選んだのです。コンピュータが好きというだけでなく、お客様の要望に応じて様々な提案をし、それを構築することに喜びを感じています。その手段としてコンピュータが存在するという感じですね」。何度も困難な状況を打破し、常にベストを尽くしてきた杉浦さんですが、「目的がある限り、失敗は経験になるんですよ」と、さらりと語ります。

積極的な仕事への取り組みが 業績をあげる

杉浦さんの職業意識は、小学生時代にすでに培われていたとか。「小学生の頃から耐火煉瓦の材料になる粘土を掘って、家業の手伝いをしていました」。大学3年生の夏休みには自動車組み立ての会社で、アルバイトながら作業改善提案をして評価されます。企業からの誘いもいくつかあったそうですが、起業する道を選びました。

起業後は、学習システムの開発や、オンラインで結ぶ受注・出荷システムを立ち上げるなど、前

同窓生で親睦をはかりつつ、 会社の一翼を担うような組織に

Masahiko Nishibeppu

「愛工会」は 職場の人間関係にもプラス

中部地区を中心に多くの卒業生が各業界で活躍していますが、愛知県刈谷市に本社を置く近藤組グループには、70名の愛工大出身者が働いています。「愛工会」という名のもとに、年2回の親睦会や歓迎宴会、ゴルフコンペなどが行われ、年代やセクションの違う同窓の仲間が集う会となっています。

現在、副会長を務める西別府さんは、「愛工会」は社内では表立って活動して無いものの、先輩が後輩の相談にのったり、会社の状況を伝えたりするなど、仕事をしていく上でも有意義な会だと言います。「今、会社は丸一となって問題解決をし、物事をすすめていかなければならない状況にあります。社員の結束が求められる中、幅広い年代層と様々なセクションに卒業生がいることは、大きな役割を果たしていると思います。できれば、さすが愛工会と言われるように、会社の一翼を担うようになっていけたらいいですね」。

卒業生に 期待をかけています

建設業界では、経験や技術力の継承が大事だとか。「新入社員の採用がなくて、1年でも間が抜けてしまうと、技術などがスムーズに伝わらないことがあります。その点、毎年、2名程度の卒業生が入社していることは、大きな意味がありますね」。採用にも関わる立場の西別府さんは、

優秀な人材を採りたいという思いから、大学へ要望を出すこともあるとか。「挨拶など、最低限のコミュニケーション能力を身に付けて卒業してくれば、会社で必要な技術は入社後に修得できます」。

学生時代は構造の専攻で、徹夜で実証実験をしたこともあった西別府さん。社会人になって感じたのは学生と社会人の違い。「学生時代はお金を払って教えてもらった立場だったのが、社会人になると、お金を受け取り教えてもらうわけで、責任が違いますね」。



株式会社近藤組
取締役執行役員
西別府 昌彦 氏(53A)

現場で培われたものが 自信となって

会社に入ってから10年程前までは施工管理の責任者として現場の第一線で活躍。「印象深いのは最後に手がけた三重県の現場です。地元企業とのジョイントで、今までのように自社のコンピュータシステムが通用しないので、現場の管理などもすべて手作業でした。さらに工事中に阪神・淡路大震災に見舞われ、現場が倒壊し、復旧工事に追われるなど、苦労も多かった反面、やり遂げたことで自信につながりましたね」。

現場から離れた今も、休日にふらりと現場を訪れ、新しい素材や工法にふれながら後輩たちと話をするのが楽しみと言う、根っからの技術屋さんです。

建築工学科、最後の同窓会

平成19年3月21日、名古屋ガーデンパレスにて、建築工学科の最初で最後の同窓会を開きました。内輪の会は毎年いろいろな場所で行われていましたが、公式の全体同窓会は今回がはじめてです。久しぶりに会う先生方、同級生は、皆いい顔をしており、第一線で活躍されている様子がわかります。

今回、社会全体の変化により、B科の30年の歴史に幕がおりますが、都市環境学科に引き継がれ発展することを切に願います。

今回の同窓会で、後藤学長、稲垣副学長、山田都市環境学科長、中村建築工学科長、建部事務局長、道家建築科同窓会会長、加藤土木科同窓会会長、大学同窓会室、卒業生の皆様にご出席いただき、同窓会が盛大に行われたことに、深く感謝し、愛知工業大学と都市環境学科のますますの発展をお祈りいたします。



最後の同窓会に出席した関係者の皆さん

中国東南大学で同窓生と交流

平成19年6月18日、中国を訪問した後藤学長ら7名の代表団と中国分会の同窓生による懇親会が開催されました。会に先立ち、後藤学長と東南大学学長の会談や、電気工学専攻の穂積教授と応用化学専攻の手嶋准教授による特別講義も行われました。



中国分会の同窓生と代表団の一行

学長を囲んで役員懇親会

平成19年5月11日に、若水会と瑞若会本部役員の有志が集い、学長を囲んでの懇親会が持たれました。

学長からの大学の現状や50周年に向けての大学の取り組み等のお話を皮切りに、出席者の皆さんからの忌憚のないご意見ご要望等をいただき、貴重な情報交換を行うことができました。

若水会は大葉元会長の発案で発足し、4年ほど前から年に数回の情報交換を主たる目的として活動しています。



情報交換のために集まった役員

土木同窓会「杜朋」幹事会・役員会開催

平成19年8月3日に名古屋市千種区のルブラ王山で土木同窓会の幹事会・役員会が開催されました。

今回は16名の出席で活動報告などが行われました。また、土木工学専攻のJABEE受審に関連して卒業生の資格取得調査（特に技術士）に関する話題がでました。

この会は毎年7～8月頃に開催され、今回で33回になります。同窓生の交流の場でもあるので、ぜひ参加していただければと思います。

★参加希望やその他連絡は岩月まで
iwatsuki@aitech.ac.jp



土木同窓会の幹事と役員

関東支部2007年総会と第7回技術交流セレクション開催

平成19年5月27日に東京都品川区立総合会館で関東支部の総会と技術交流セレクションが行われました。参加者は愛工大から小嶋副学長、瑞若本部から野寄会長、近藤副会長、立枕事務局次長、関東支部は水野関東支部長ほか35名が参加されました。



開会宣言をする水野政光関東支部長



小嶋憲三副学長からのあいさつ



瑞若会の野寄克己会長からのあいさつ



愛工大知能機械工学専攻加藤教授の講演



懇親会で披露された尺八と琴の演奏

愛知工業大学同窓会関東支部2007年総会「第7回技術交流セレクション」

技術交流セレクションでは、愛工大の加藤厚生教授の「ホームロボットの時代が来る」と、関東支部の白木辰夫氏(38R)と小荒井 順氏(39R)の「技術屋の定年セカンドライフレポート」の講演があり、その後の懇親会では小山泰一氏(50R)の尺八・琴の演奏が披露されました。

同窓生近況スナップコーナー

おおがかりな同窓会は開けなくても、お互いに近況報告をしようミニ同窓会はあちらこちらで開かれています。そんな中から事務局にお便りをいただいたグループの写真を掲載します。



筑波にある産総研の研究所で技工をしながら研究をし、今回愛工大で学位を取った五島さん、レーザ研の卒業生が集まって、お祝いの会を開きました。



土木工学科昭和61年卒業の9名がお盆休みに集まりました。子供の受験や仕事のことなど話題はつきず、再会を約束して会はお開きになりました。

大学では、研究や教育の多様化、国際化などに対応するべく、施設や設備の充実をはかっています。この10年余りで新しい施設も次々にでき、キャンパスもリニューアルされつつあります。学生時代を思い出しながら、移り変わる大学の姿を見てみましょう。

ぐるり学内散策



池と見事な調和を見せる本部棟

ゲートからまっすぐ奥に見えるのが平成7年3月に完成した10号館です。池の辺りまで来ると、シンボルの時計台も見えてきます。その隣の新しい建物は昨年完成した本部棟です。



耐地震研究の拠点となる設備

10号館の左奥には、地域防災研究センター（平成17年3月完成）、さらに奥には耐震実験センター（平成11年3月完成）と、国内有数の耐地震研究設備があり、本格的な研究が行われています。



新しくなった7号館のトイレに注目!

AITプラザの横には食堂やATM、理容室などもある愛和会館。その奥には最近、トイレや講義室などがリニューアルされたばかりの7号館があります。

愛和会館の反対側には、第2本部棟、付属図書館、平成15年3月にできた12号館と続きます。



入口横の鉄人28号が目を引く

12号館1階には「エクステンションセンター」があり、資格取得などに関する資料を取り揃え、学生の相談にのっています。地下には「みらい工房」があり、様々な機械や材料が用意され、学生たちの創造の場となっています。



学生の憩いの場と同窓会事務室

10号館の並びにあるAITプラザは、平成13年3月完成の建物。1階にはマクドナルドやスガキヤもあって、学生の憩いの場になっています。2階にはコンビニや本屋さんがあり、3階には同窓会事務室があります。



コンピュータ学習に最適な環境

ゲートから一番奥の11号館は平成12年3月にできた建物で、コンピュータ環境が整っています。教室の座席全部にノートPCを接続できるよう情報コンセントが設置され、ネットワーク、マルチメディアなどの演習を可能にしています。11号館の向い側、機械学科の工場横にあるのは、大講義室を備えた13号館（平成17年4月完成）です。

グローバルな研究活動の拠点

13号館をあとにサッカー場を左上に見ながら進むと、右手に総合技術研究所（平成4年11月完成）が姿を見せます。学内研究のみならず、地域産業の技術発展に寄与することを目的に設立されたものです。産官学連携の共同研究や国際共同研究、公開シンポジウムの開催など、様々な研究活動を支えています。



快適な学生生活を応援する寮

ぐるりと一周し、再び池の前へ戻ってくると、左手の高台に寮が見えます。八千草寮には思い出深い同窓生の皆さんもいらっしゃることでしょ。新たに平成17年7月、4階建ての南館が増築されました。1階にはロビーやラウンジが設けられています。



懐かしの1枚!



昭和43年完成当時の本部棟

退職教員紹介 平成19年3月31日付で退職を迎えた先生方のコメントをご紹介します。



工学部電気学科
電気工学専攻 教授
澤 五郎

平成12年に赴任以来7年間、教育研究ならびに管理運営に専念できましたのは、皆様のご協力の賜物と深く感謝しております。

私は仏教に関心がありますが、そこでは、現時点での未知の領域は「縁」とも言われます。研究はこの縁を明らかにしていく無限の営みかと思われま

専門は電気絶縁ですが、超電導を対極とした新しい絶縁を縁から引き出せないでしょうか。

これからは自由な立場から、これらに挑戦するとともに、愛工大の発展に微力を注ぐ所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



工学部機械学科
知能機械工学専攻 教授
中原 崇文

企業を定年退職後、平成7年4月から12年間愛知工業大学にお世話になりました。

実際の開発経験を講義や研究に反映して学生諸君に少しでも理解しやすい中味とすることを心がけ、研究室からはトヨタ自動車や三菱重工などへ卒業生を送り出すことができました。

研究室のモットーは「現と原」で、現象を定量的に正しく測定し、現象を左右している原理原則を明らかにして新しい技術を生み出そうとするものです。大学の「実学教育」と同じ狙いで有意義な大学生活でした。

瑞若会のご発展を祈念しております。



工学部都市環境学科
土木工学専攻 教授
長瀬 重義

平成14年から総合技術研究所の客員教授として、平成16年から工学部教授として計5年間お世話になりましたが、本学に奉職してから本当に祝事の連続でした。例えば、平成14年に藍綬褒章受章、翌年に土木学会吉田賞(研究業績部門)、平成18年に土木学会功績賞受賞と名誉会員への授挙等がありました。この祝事は平成19年も米国コンクリート学会名誉会員、日本材料学会名誉会員、日本コンクリート工学協会

名誉会員への推挙に連なっております。

また、平成14年から1年間ダム工学会長、平成16年から2年間日本コンクリート工学協会長を務めさせていただき、本当に学内で席を暖める間の無い生活ではありましたが、愛知工業大学を国内外にPRすることには努力したつもりであります。

4月以降、特任教授としてもう少しお世話になることになりましたので、よろしくお願い申し上げます。



工学部都市環境学科
建築学専攻 教授
中田 幸男

平成8年から11年間、お世話になりました。民間の建設会社で設計に35年間従事し、定年退職後に設計担当教員として就任しました。40歳以上も年齢の離れた夢多き青年諸君と、苦楽ともにした楽しい11年間でした。

在任中は卒業後どのような分野の仕事に就こうとも、狭義のデザインにとらわれず、社会資産としての良質な建築を目指して活動することの大切さ、そのた

めの関連技術の習得に努めるように訴えてきたつもりです。

また、東南大学との建築設計展での中国訪問や父兄懇談会への参加等もあり、学生との交流以外にも楽しい思い出にあふれた教員生活でした。ひとえに非常勤を含めた教職員の方々、瑞若会の方々のご愛顧の賜物と感謝致しております。



工学部都市環境学科
建築環境学専攻 教授
大井 孝和

建築工学科が発足した昭和51年4月から、平成19年3月に最終学年の卒業生を送り出すまで、建築工学科の教授として過ごしました。

建築学科から見ると、建築工学科は弟分のような学科でしたが、卒業生は3000名を超え、それぞれの働きは社会で高い評価を受けています。

この31年間には思い出がぎっしり詰まっています。最初から、愛工大の純朴な気風と、素晴らしい「学歌」と「建学の精神」に引き込まれました。学歌は現在も愛唱歌です。好きな言葉は「あなたがたは地の塩である」。好きな建築材料は「コンクリート」です。



経営情報学部情報科学科
経営情報システム専攻 教授
白岩 義夫

本年3月末をもって43年間の「大学」という研究・教育の場から無事引退することができました。

前半の24年間は女子大で、後半の19年間は男子学生が大多数の愛工大で、若い学生たちとともに過ごせたことは、私にとって実に楽しい生活でした。

一方で、工業大学とあまり関係のな

い乳幼児の行動発達を研究課題としていた人間を採用していただいた本学園理事長に感謝しています。

本年4月から経営情報科学部の特任教授兼ACEの校長として、もう一踏ん張りの機会をいただき、がんばっています。



経営情報学部情報科学科
経営情報システム専攻 教授
安井 一民

平成元年4月に工学部経営工学科に奉職して以来、18年間お世話になりました。その間、特に教育・研究の分野で2人の大学院生の指導教授としてかわり、彼らがともに学位を取り、現在は他大学の准教授として活躍していることは、印象に残る喜ばしいことです。

その後、経営工学科は経営情報科

部の2学科に改組され、さらに大学院経営情報科学研究科も設置されました。そのモニター期間の関係などで、もう少しお世話になることになりましたので、よろしくお願い致します。

人事に関するお知らせ

退職教員 H19年 3月31日付	工学部電気学科	教授	澤 五郎	■新任 愛知工業大学情報電子専門学校 助教授 村瀬 正敬 (55R) 愛知工業大学名電高等学校 教諭 野崎 敏広 (55C) 学生支援本部インターシップ支援センター 参事 美頭 甲子雄 (45E) 入試本部入試センター 参事 市川 繁富 (45E) 新規委嘱 教学センター学生課 嘱託職員 鬼頭 明 (H9K) 愛知工業大学名電高等学校 常勤講師 横井 尚治 (54B)
	工学部機械学科	教授	酒井 春雄	
工学部機械学科	教授	中原 崇文		
工学部都市環境学科	教授	長瀬 重義		
工学部都市環境学科	教授	曾田 忠宏		
工学部都市環境学科	教授	大井 孝和		
工学部都市環境学科	教授	中田 幸男		
経営情報学部情報科学科	教授	白岩 義夫		
経営情報学部情報科学科	教授	安井 一民		
経営情報学部マーケティング情報学科	助教授	富田 八郎		
基礎教育センター	講師	太田 伸幸		
新任教員 H19年 4月1日付	■工学部			
	電気学科	教授	高村 秀一	
	機械学科	教授	神谷 恵輔	
	■経営情報学部			
	情報科学科	教授	福垣 康善	
マーケティング情報学科	准教授	小森 清久		
■基礎教育センター				
総合教育教室	教授	甲村 和三		
総合教育教室	教授	佐藤 順彦		
人事異動 卒業生関係	准教授	内田 敏久 (H7R)		
	事務長(次長格)	立枕 孝之 (49K)		
	事務主任	山田 真吾 (H11D)		
	事務主任	坂野 慎介 (H11K)		
	次長	矢野 敬典 (50K)		
■昇任				
工学部機械学科知能機械工学専攻	准教授	内田 敏久 (H7R)		
工学部事務室	事務長(次長格)	立枕 孝之 (49K)		
学生支援本部教学センター教務課	事務主任	山田 真吾 (H11D)		
計算センター事務部	事務主任	坂野 慎介 (H11K)		
法人部	次長	矢野 敬典 (50K)		
■任命				
副学長		小嶋 憲三 (40E)		

●瑞若会 平成19年事業報告(平成19年1月1日～19年12月31日)

	本部の会議	各種行事
1月		■地域支部「中・四国支部新年懇親会」(1/27) (ホテル川六エルステージ)
2月	第5回事務局会議開催(2/28) 第5回総務常任委員会開催(2/28)	
3月		■建築工学科同窓会開催(3/21)(名古屋ガーデンパレス) ■平成18年度 卒業式(3/23)「瑞若賞」贈呈 卒業生に記念品配布(3/23) ■私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(3/28) (大同工業大学)
4月		■平成19年度入学式(4/2)新生に「START-UP」配布
5月	第1回事務局会議開催(5/24) 第1回総務常任委員会開催(5/24)	■「若水会」との交流会(5/11) ■関東支部総会(5/27)(品川区立総合会館)
6月	○理事会・支部長会議開催(6/16) (名古屋ガーデンパレス)	■愛知県私立大学同窓会連合会三役会開催(6/15) (ホテルキャッスルプラザ) ■「みすわか」編集委員会開催(6/11) ■新会員のデータ入力(6/14) ■新会員の同窓会費入金処理(6/14) ■職場支部「三友支部懇親会」(6/22)
7月	第2回事務局会議開催(7/12) 第2回総務常任委員会開催(7/12)	■愛知県私立大学同窓会連合会平成19年度総会(7/13) (ホテルキャッスルプラザ) ■地域支部「中・四国支部懇親会」(7/14) (ホテルNO1松山) ■職場支部「近藤グループ愛工会懇親会」(7/27)
8月		■岐阜AITオープンフォーラム(8/25)(岐阜グランドホテル)
9月		■関西AITオープンフォーラム(9/15)(京都タワーホテル) ■三重AITオープンフォーラム(9/22)(四日市都ホテル)
10月	第3回事務局会議開催(10/30) 第3回総務常任委員会開催(10/30)	■北陸AITオープンフォーラム(10/6)(金沢都ホテル) ■静岡AITオープンフォーラム(10/20)(浜松名鉄ホテル) ■静岡県支部支部総会(10/20)(浜松名鉄ホテル) ■中・四国AITオープンフォーラム(10/27) (岡山ロイヤルホテル) ■愛工大祭 開催への援助
11月		■私立大学同窓会連合会定例事務局局長会議(11/9)
12月		■「みすわか vol.40」会員へ郵送

凡例: ○本部事業 ■学内事業 ■支部事業 ■その他

●平成18年度決算書 収支計算書 ～経常経費～

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
(単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 額	備 考	
収入の部	入会金(基本金)	4,400,000	4,828,000	428,000		
	終身会費	22,000,000	24,140,000	2,140,000		
	年会費	10,000	0	△10,000		
	受取利息	200,000	187,872	△12,128		
	雑収入	0	0	0		
	名簿売却収入	0	0	0		
	当期収入合計①	26,610,000	29,155,872	2,545,872		
支出の部	前期繰越金②	65,793,068	65,793,068	0		
	収入の部合計①+②	92,403,068	94,948,940	2,545,872		
	事業費	学科・支部援助費	3,000,000	2,753,781	△246,219	
		大学祭援助費	600,000	600,000	0	
		会報発行費	7,000,000	6,355,264	△644,736	
		卒業記念品費	300,000	2,593,500	2,293,500	
		準会員支援費	900,000	915,000	15,000	
		名簿管理・IT関連費	1,500,000	3,029,880	1,529,880	
	事務費	小計	13,300,000	16,247,425	2,947,425	
		人件費	1,200,000	1,033,030	△166,970	
		消耗品費	600,000	474,173	△125,827	
		会議費	1,500,000	497,140	△1,002,860	
		慶弔費	400,000	136,750	△263,250	
		私大同窓会連合会費	150,000	158,000	8,000	
雑費・手数料		100,000	151,035	51,035		
小計		3,950,000	2,450,128	△1,499,872		
予備費	400,000	0	△400,000			
基本積立金へ	4,400,000	4,828,000	428,000	入会金		
当期支出合計③	22,050,000	23,525,553	1,475,553			
当期収支差額④(①-③)	4,560,000	5,630,319	1,070,319			
50周年準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0			
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	67,353,068	68,423,387	1,070,319			
支出の部合計③+⑤+⑥	92,403,068	94,948,940	2,545,872			

●平成18年度決算書 収支計算書 ～基本積立金～

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
(単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 異	備 考
収入の部	経常経費から繰入	4,400,000	4,828,000	428,000	
	前期繰越金	169,656,087	169,656,087	0	
	収入の部合計	174,056,087	174,484,087	428,000	
支出の部	次期繰越金	174,056,087	174,484,087	428,000	
	支出の部合計	174,056,087	174,484,087	428,000	

●平成18年度決算書 収支計算書 ～50周年準備費～

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
(単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 異	備 考
収入の部	定期総会・懇親会費	1,400,000	910,000	△490,000	
	経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
	前期繰越金	13,718,797	13,718,797	0	
	収入の部合計	18,118,797	17,628,797	△490,000	
支出の部	案内状郵送料	2,800,000	2,483,349	△316,651	
	定期総会・懇親会経費	3,000,000	1,989,008	△1,010,992	
	次期繰越金	12,318,797	13,156,440	837,643	
	支出の部合計	18,118,797	17,628,797	△490,000	

	内 訳 明 細	金 額
次期繰越額	基本積立金	174,484,087
	経常経費	68,423,387
	50周年準備金	13,156,440
	合 計	256,063,914

会員 計 報

電気工学科卒

阪 雅晴(40E)
小柳津佐利(H8E)

経営工学科卒

松廣 尚佳(43K)

建築工学科卒

吉村 茂(56B)
原田 幸信(H9B)